

【調査の概要】  
 平成22年10月31時点調査(郵送法)  
 調査対象 県内1,000社  
 回答企業 415社(回答率)

## 本公社アンケートによる県内経済動向 ～ 全体として足踏み傾向続く ～

### 【全産業DI値】(表1・表2)

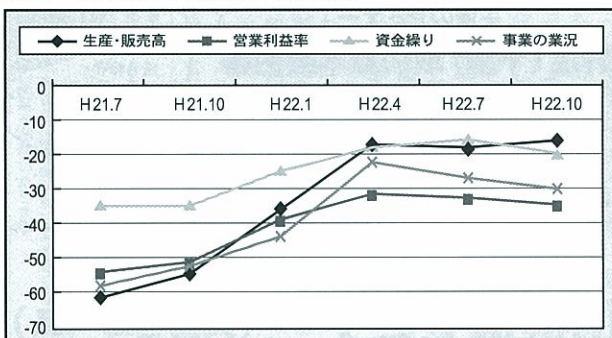
山形県全体のDI値(※)の前年同月比推移をみると、前回調査(H22.7)でやや弱含み状況にあるとしたが、今回の調査結果でもその傾向が続いている。

生産・販売高(H22.7調査▲17.8→今回調査▲16.0)、営業利益率(▲32.5→▲34.5)、資金繰り(▲15.3→▲19.7)、事業業況(▲27.6→▲30.4)と、生産・販売高除いた項目で足踏み傾向を示している。

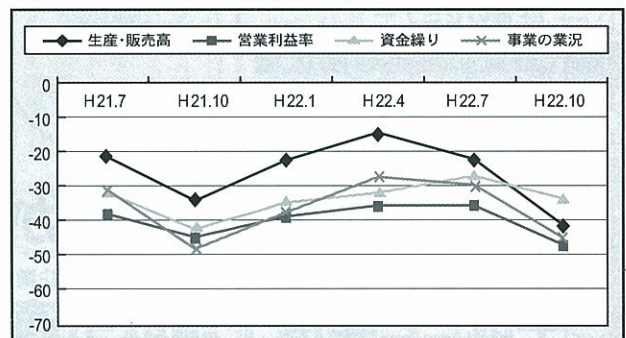
一方、3ヶ月先見通しDI値(表2)をみると、全産業前年同月比と同様に前回調査からみると、かなり厳しい見方が増えた。(H22.7調査生産・販売高▲21.9→今回調査▲40.6)、(営業利益率▲35.9→▲47.5)、(資金繰り▲27.2→▲33.8)、(事業の業況▲29.8→▲45.5)

今回調査結果からみると、前回調査から懸念されている先行き見通しへの不安が「3ヶ月先見通し」での景気減速懸念の拡大傾向にあらわれていると思われ、円高傾向や株式市況動向の経済へのリスク影響を一層注視する必要がある。

【表1 - 県計前年同月比DI値の推移】



【表2 - 3ヶ月先見通しDI値の推移】



### 【産業別DI値】(表3・表4)

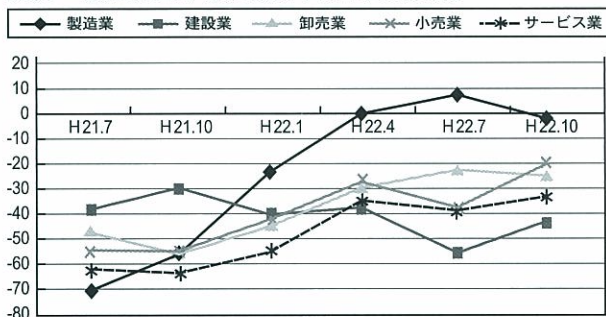
生産・販売高の前年同月比DI値を業種別の推移でみると、前回調査で4年ぶりのプラスポイントとなった製造業や改善傾向を継続していた卸売業が下落傾向となった(製造業:H22.7調査7.6→今回調査▲1.5、卸売業:▲22.2→▲25.6)となった。

一方、他の産業では改善傾向が見受けられた。(建設業▲55.7→▲41.7)、(小売業▲38.3→▲20.5)、(サービス業▲38.9→▲33.3)

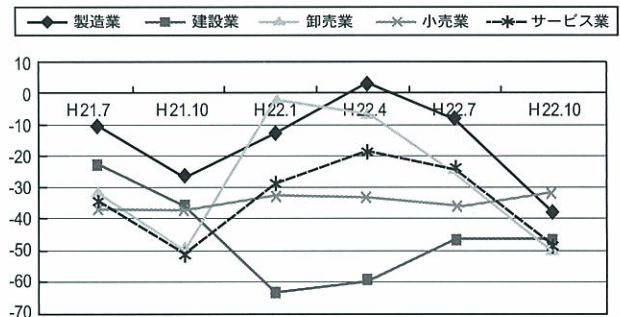
3ヶ月見通しDI値については、小売業・建設業を除き全般的に先行き懸念を示している。

(製造業▲8.2→▲38.9)、(小売業▲36.3→▲30.9)、(卸売業▲24.5→▲50.0)、(サービス業▲24.5→▲48.1)、(建設業▲46.2→▲45.8)  
 特に本県の基幹産業である製造業では、前年同月比・先行き見通しの両DI値において厳しい見方をしている企業が多い結果となっている。

【表3 - 業種別生産・販売高前年比DI値の推移】



【表4 - 業種別生産・販売高3ヶ月先見通しDI値の推移】



(※1)DI値:「増加」とした企業の割合から「減少」とした割合を差し引いた指数